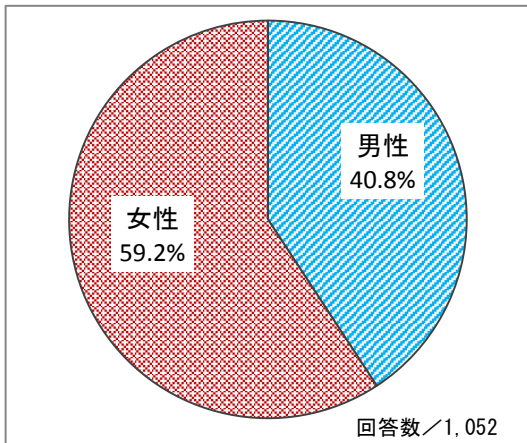


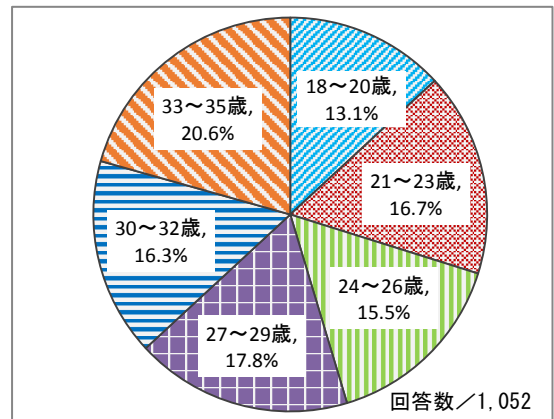
1 単純集計結果より

(1) 属性

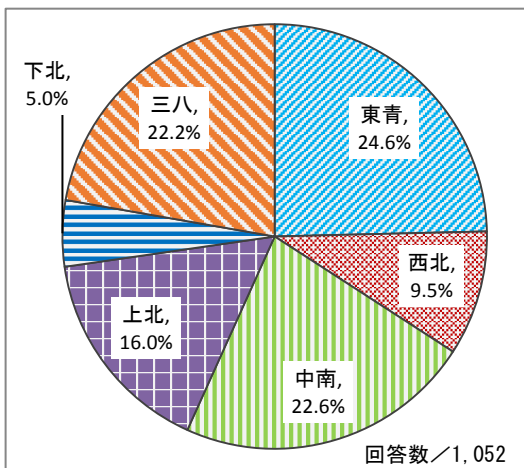
① 性別



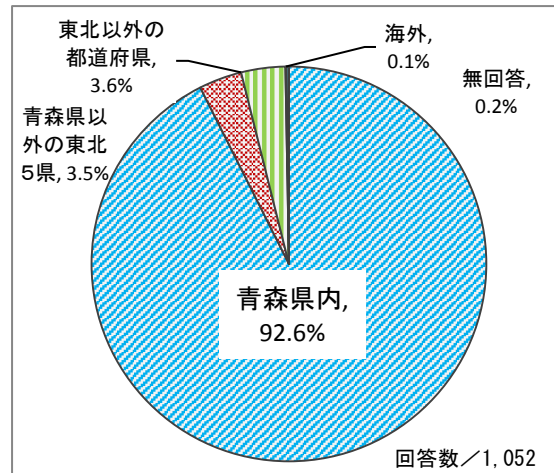
② 年齢層



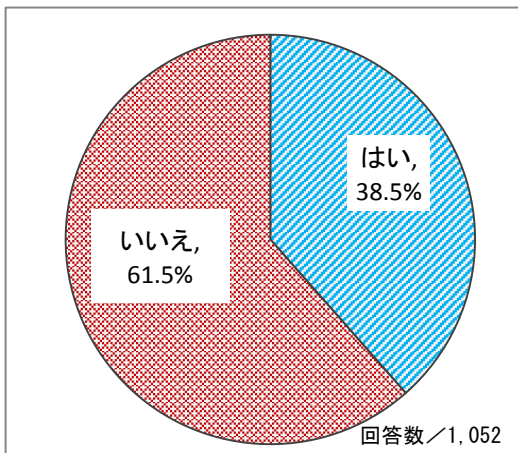
③ 居住地域



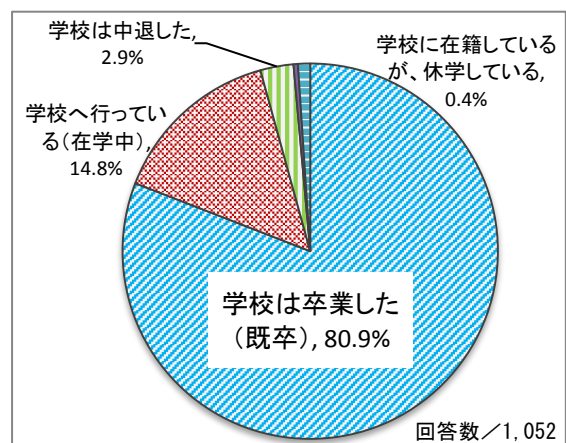
④ 卒業した中学校の所在地



⑤ 県外で1年以上生活したことがある

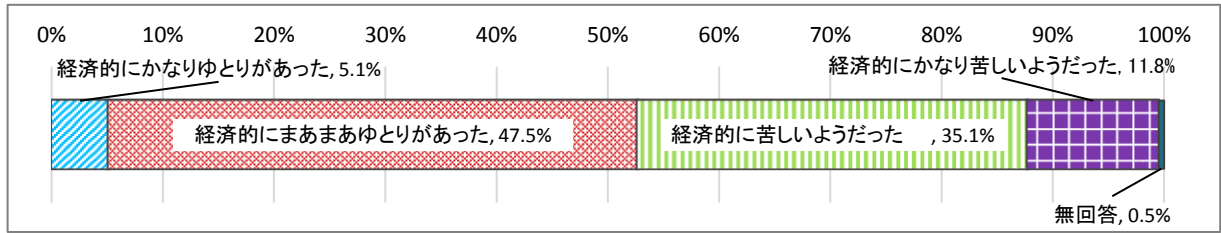


⑥ 現在学校へ通っているか



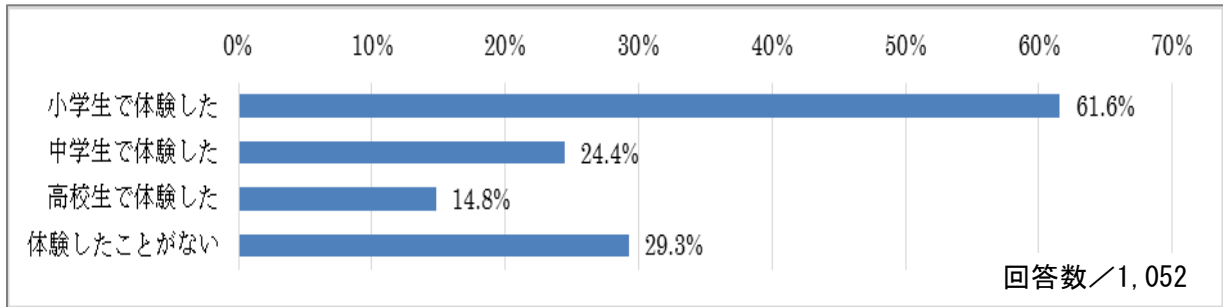
⑦ あなたが18歳のときの家庭の経済状況について

回答数/1,052

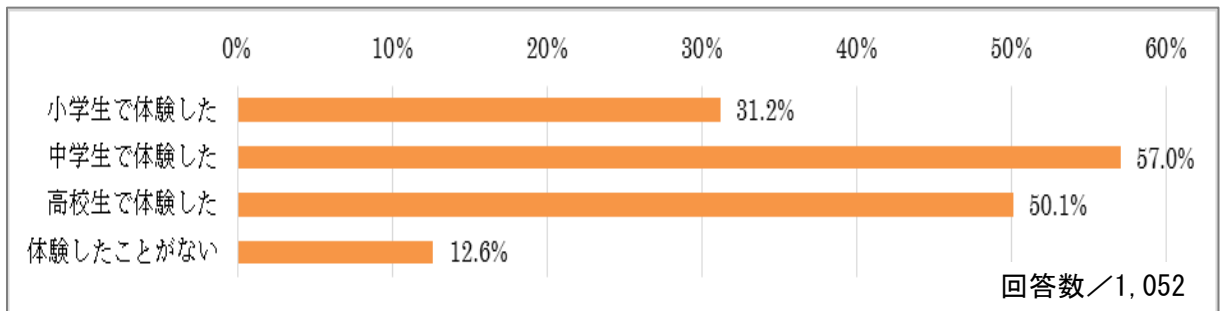


(2) 普通教育段階での社会参加活動体験、職場体験等<問6>

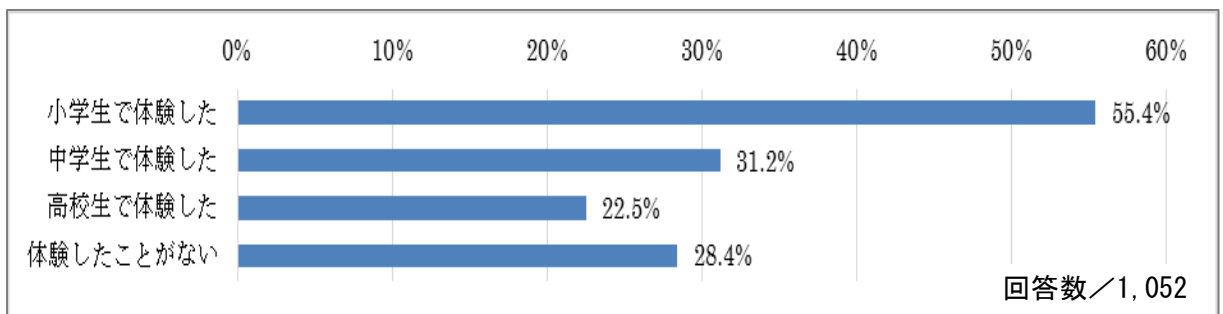
① 学校行事以外で、野外で炊事したりテントに泊まったりしたことがある



② 職場見学や職場訪問をしたことがある

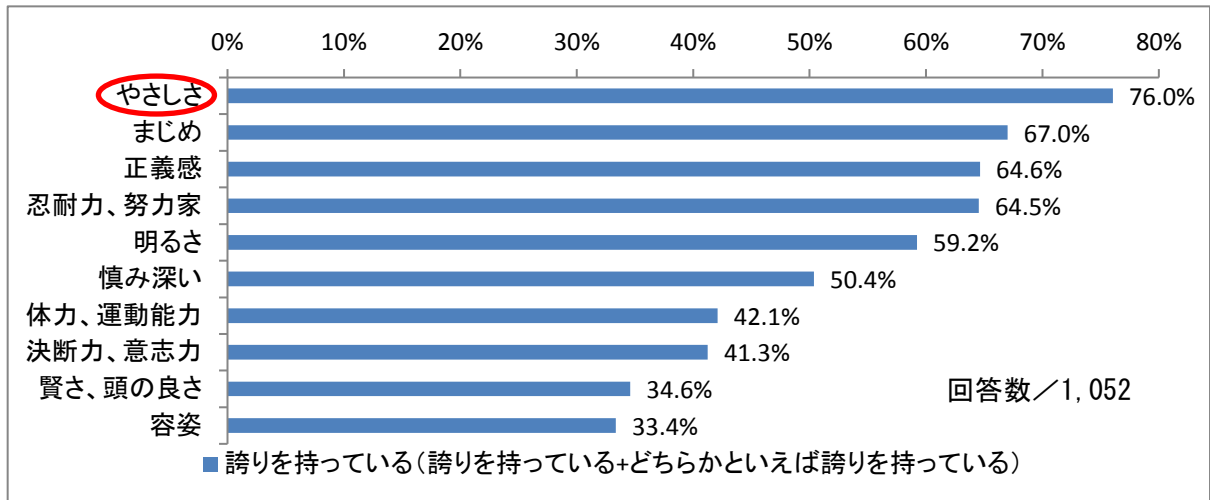


③ 地域のイベントの手伝いやゴミ拾いなどに参加したことがある



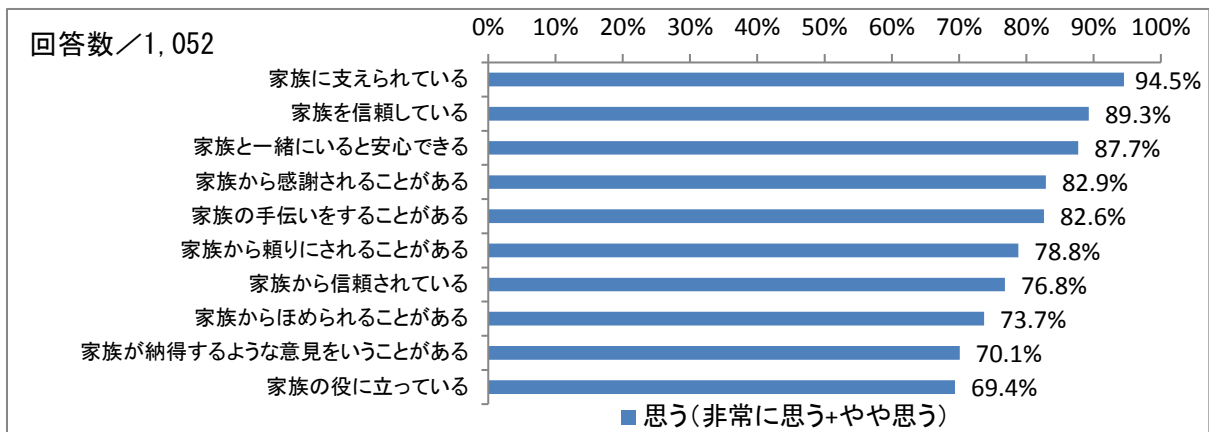
(3) 自己肯定感と自己有用感

① 自分自身のことについて、それぞれに誇りを持っているか〈問7〉

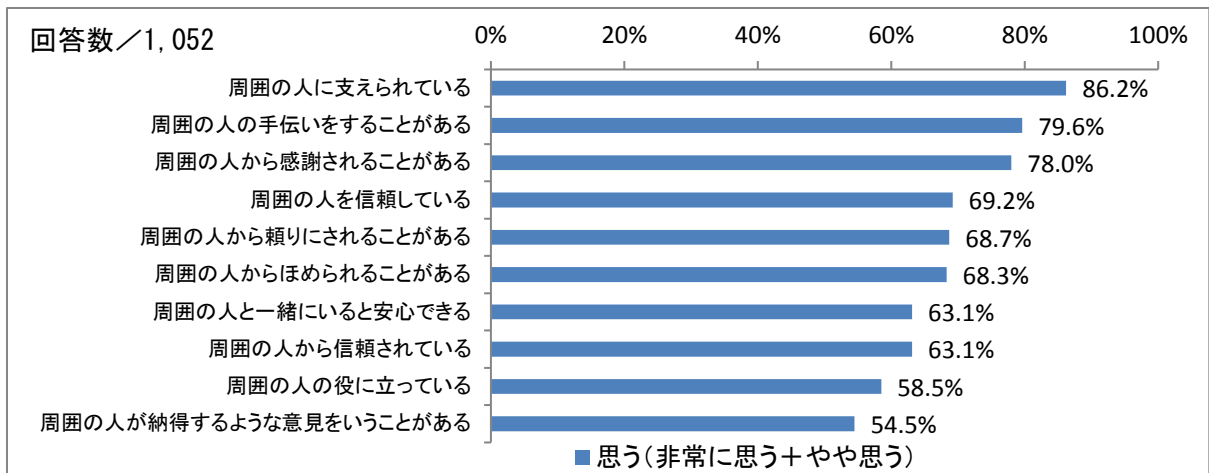


自分自身に誇りを持っているかについて、平成19年度「若年層の生活体験に関する調査研究報告書」のデータと比較すると、単数回答と複数回答の違いがあるものの、「やさしさ」に誇りをもっている若者が、約10年前と比較しても同じように多いことがわかった。また、「賢さ、頭の良さ」と「容姿」についても、同様に誇りを持っていない若者が多いことがわかった。

② 自分自身と家族との関わりについてどの程度考えるか〈問8〉

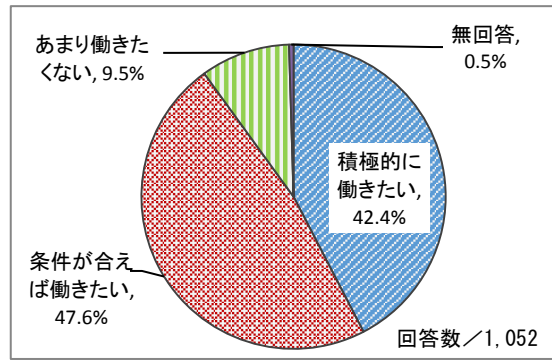


③ 自分自身と学校、職場、地域など、周囲の人との関わりについてどの程度考えるか〈問9〉

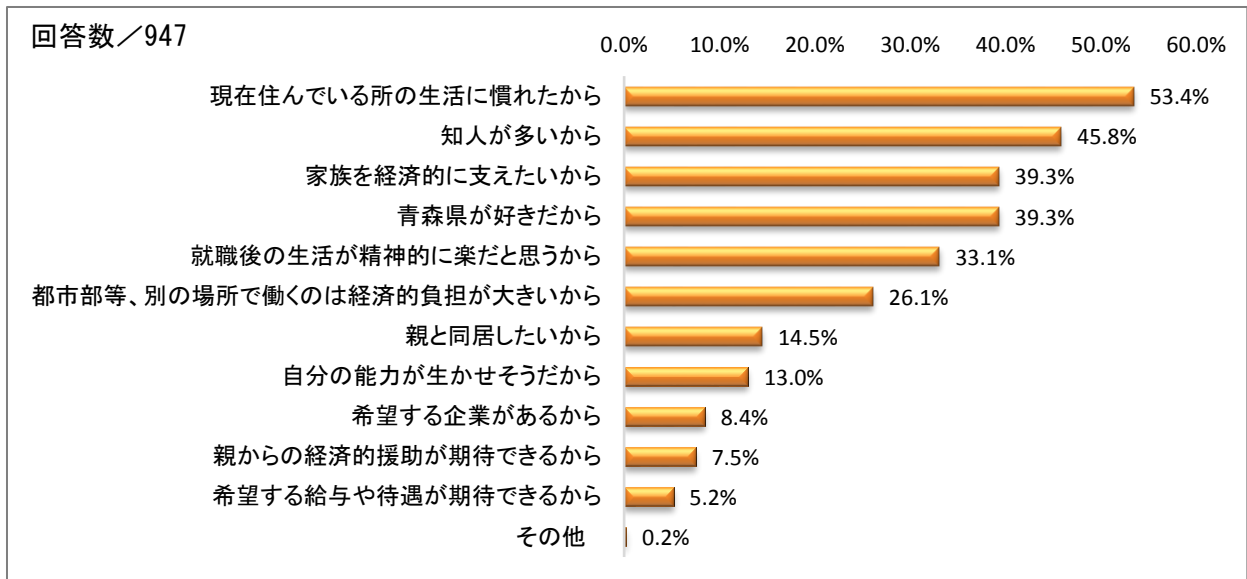


(4) 職業観と就業意識

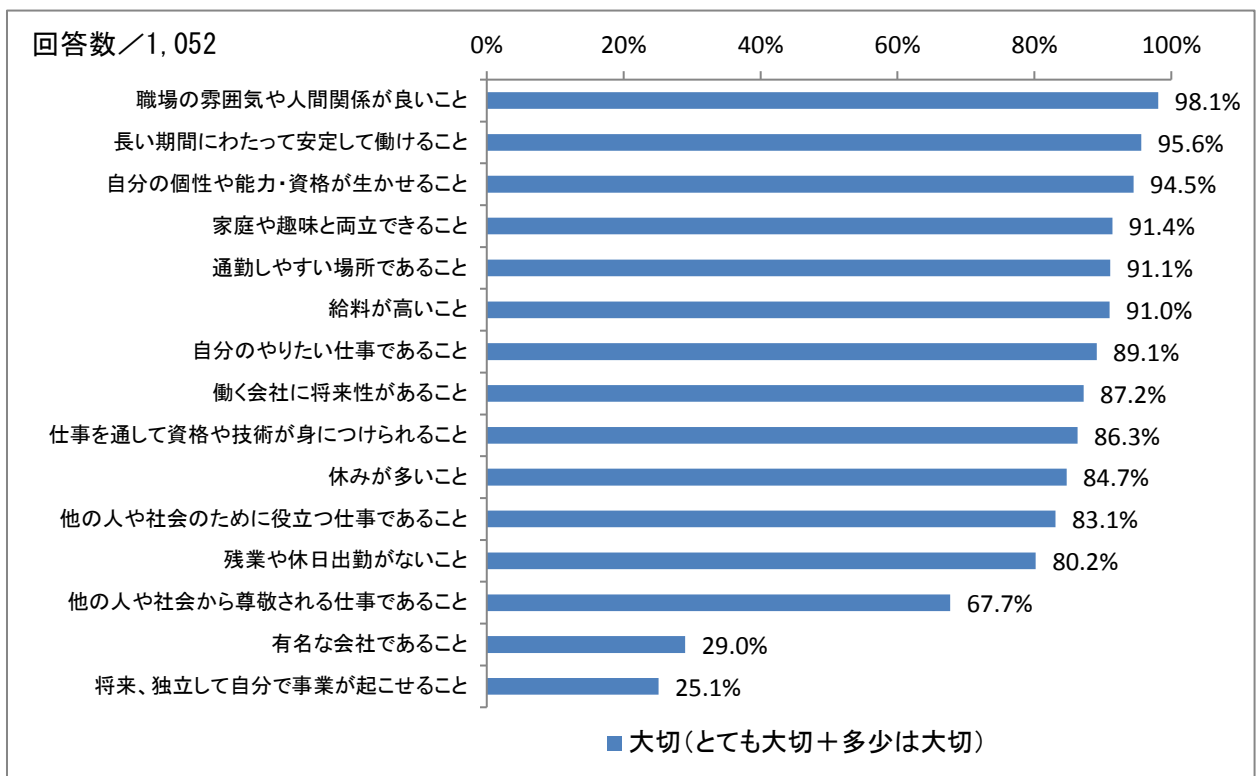
① 青森県内で働き続けることに関心はあるか<問13>



② 青森県内で働きたい理由について<問13-①>

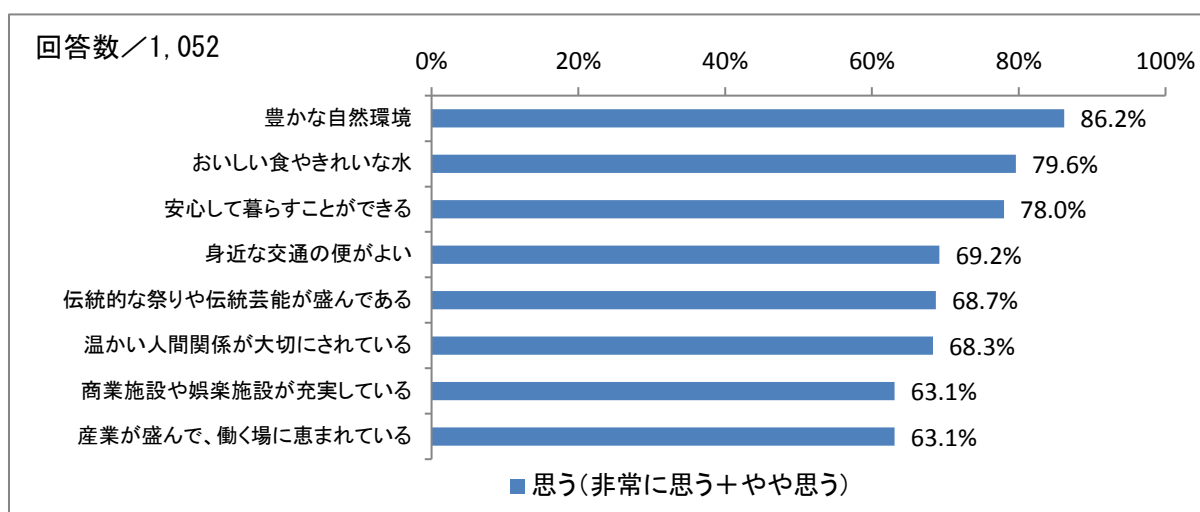


③ 仕事をする上で次の事柄はどの程度大切だと思うか<問10>

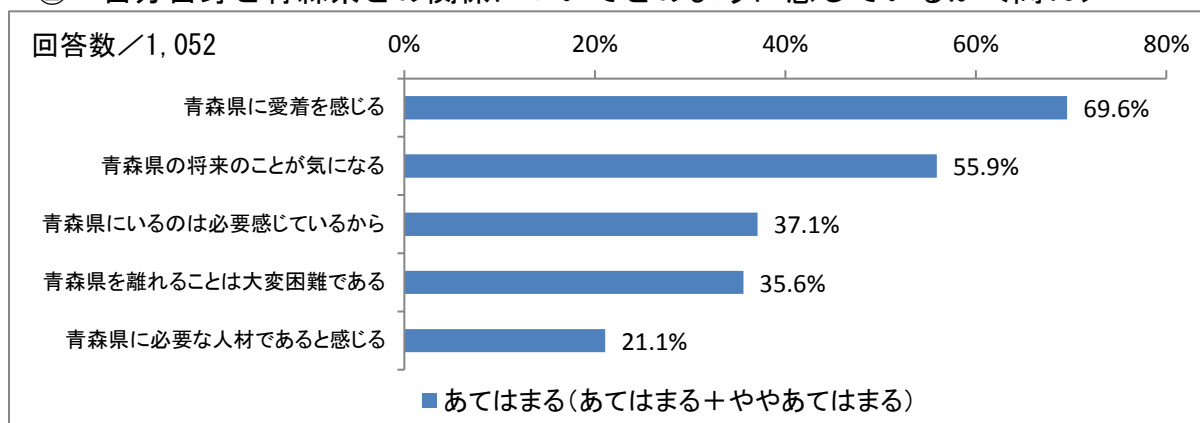


(5) 青森県のイメージ

① 青森県についてどのようなイメージを持っているか<問14>

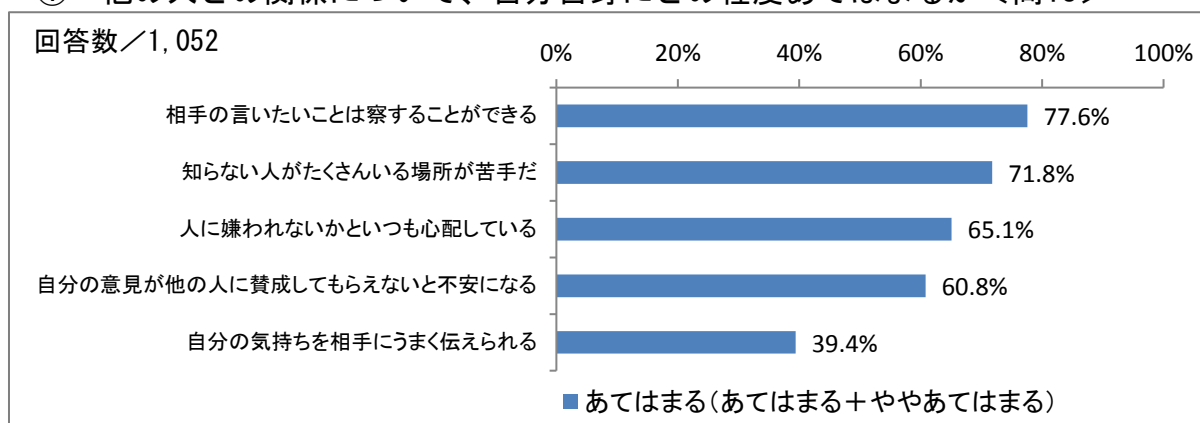


② 自分自身と青森県との関係についてどのように感じているか<問15>



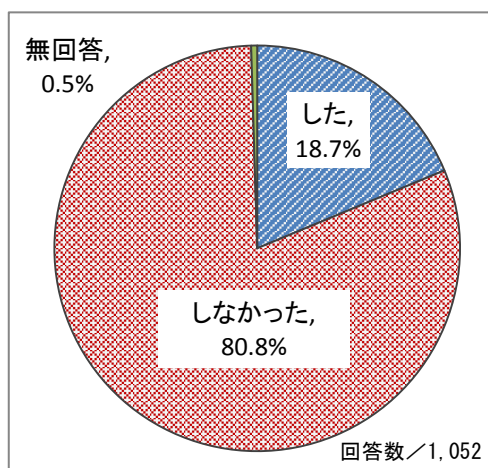
(6) 人間関係や対人スキル

① 他の人との関係について、自分自身にどの程度あてはまるか<問18>

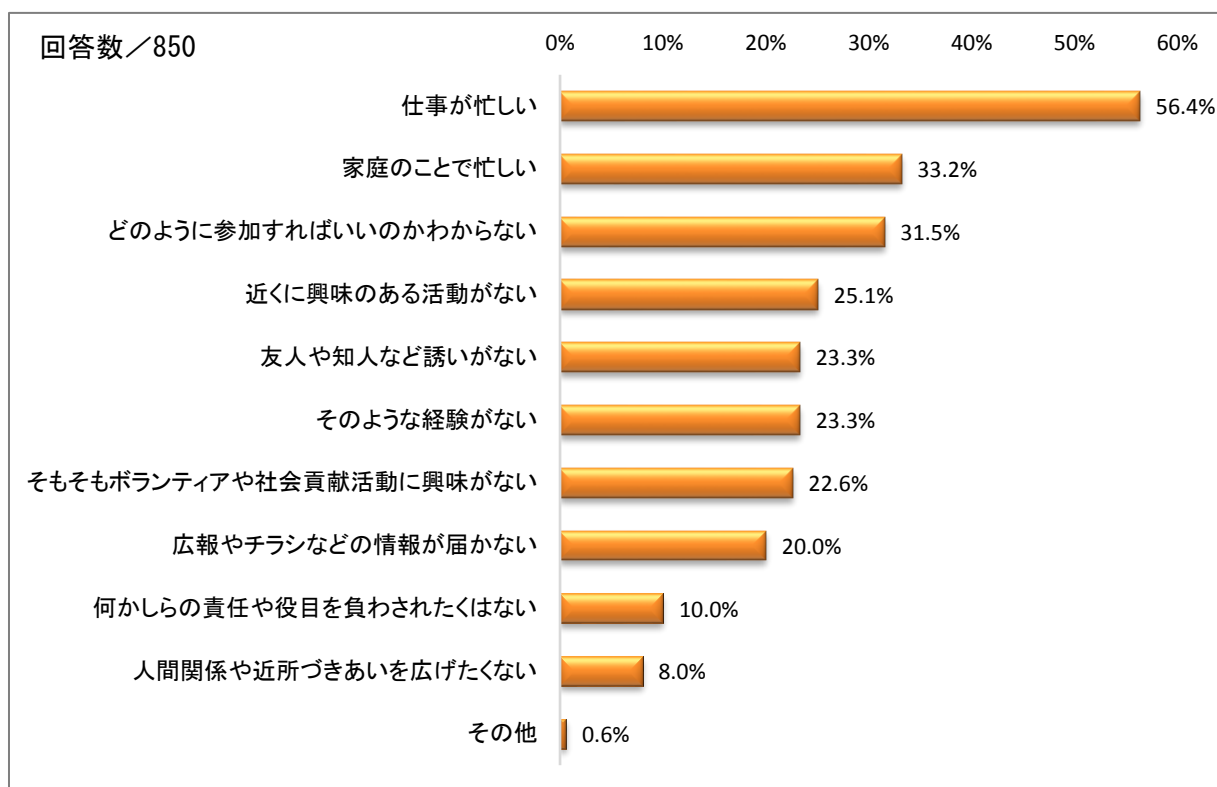


(7) 社会参加活動

① この1年間に地域活動・社会貢献活動などをしたか

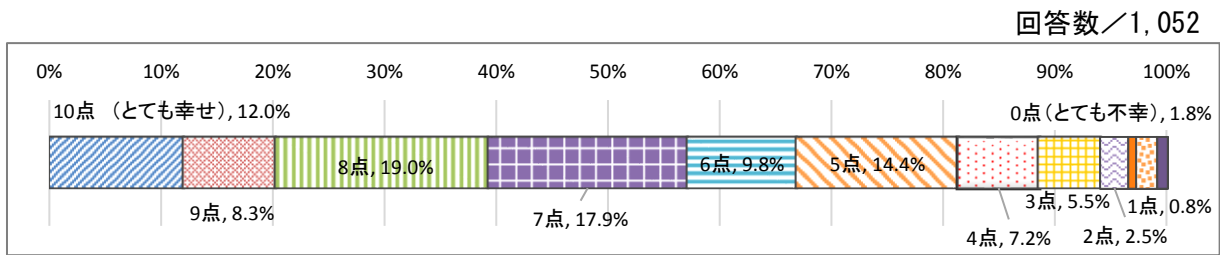


② 地域活動・社会貢献活動などをしなかった理由

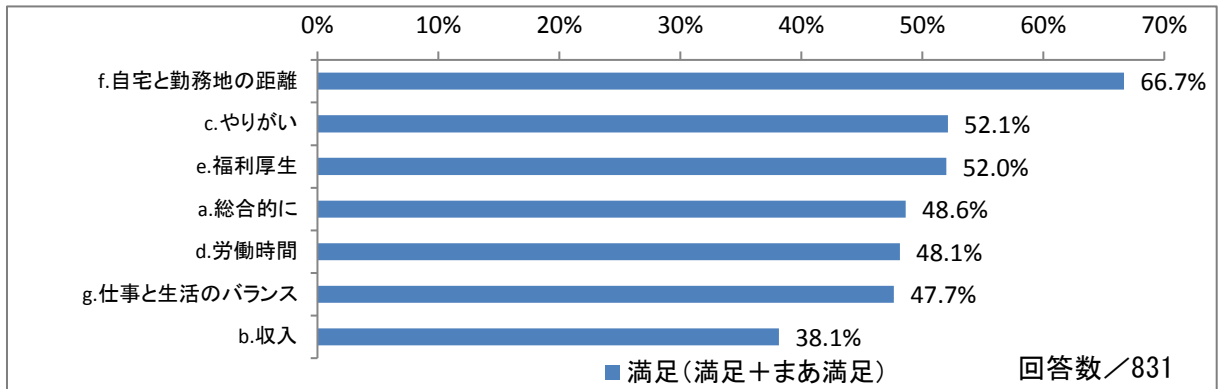


(8) 生活の幸福度や仕事の満足度

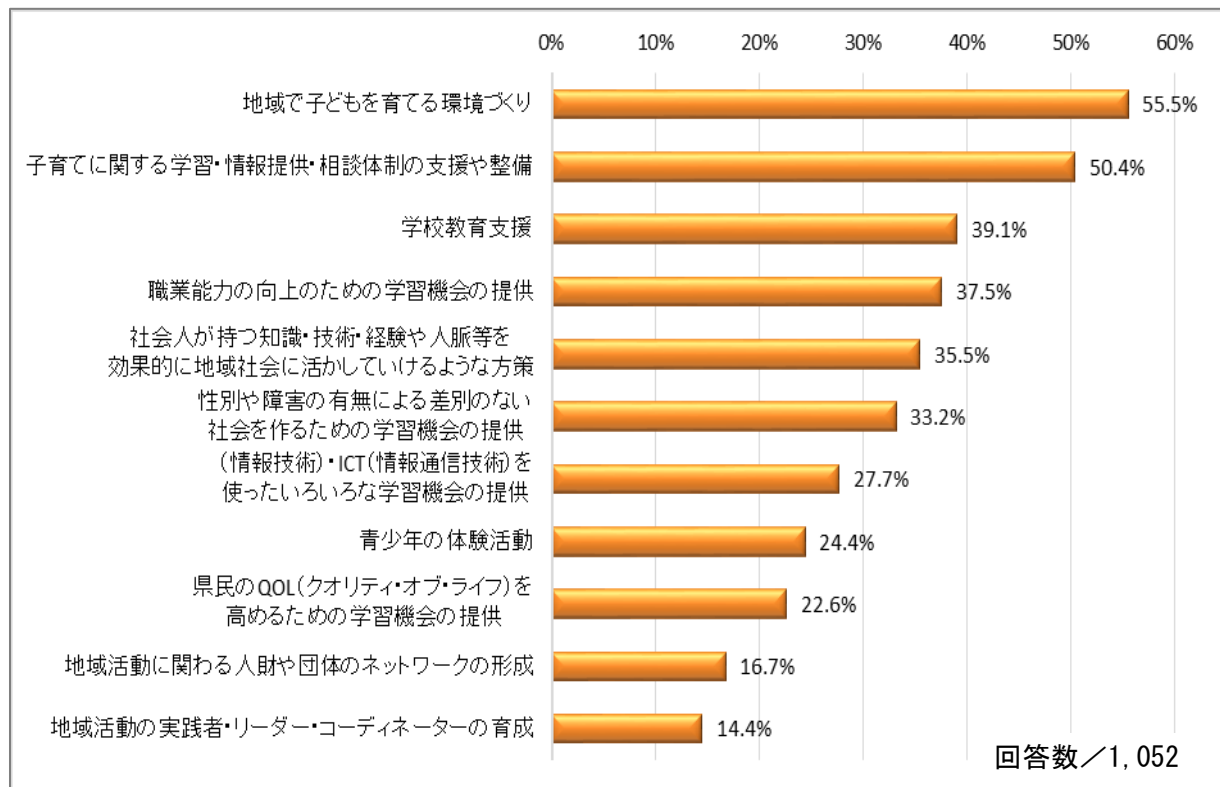
① 「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点だと思うか



② 現在仕事(アルバイトを含む)をしていて、次のことに満足しているか

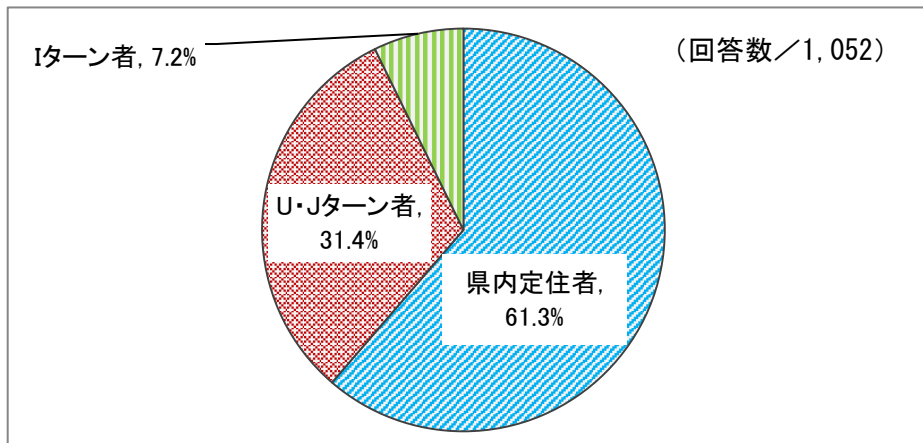


(9) 県教育委員会の生涯学習施策に対する要望



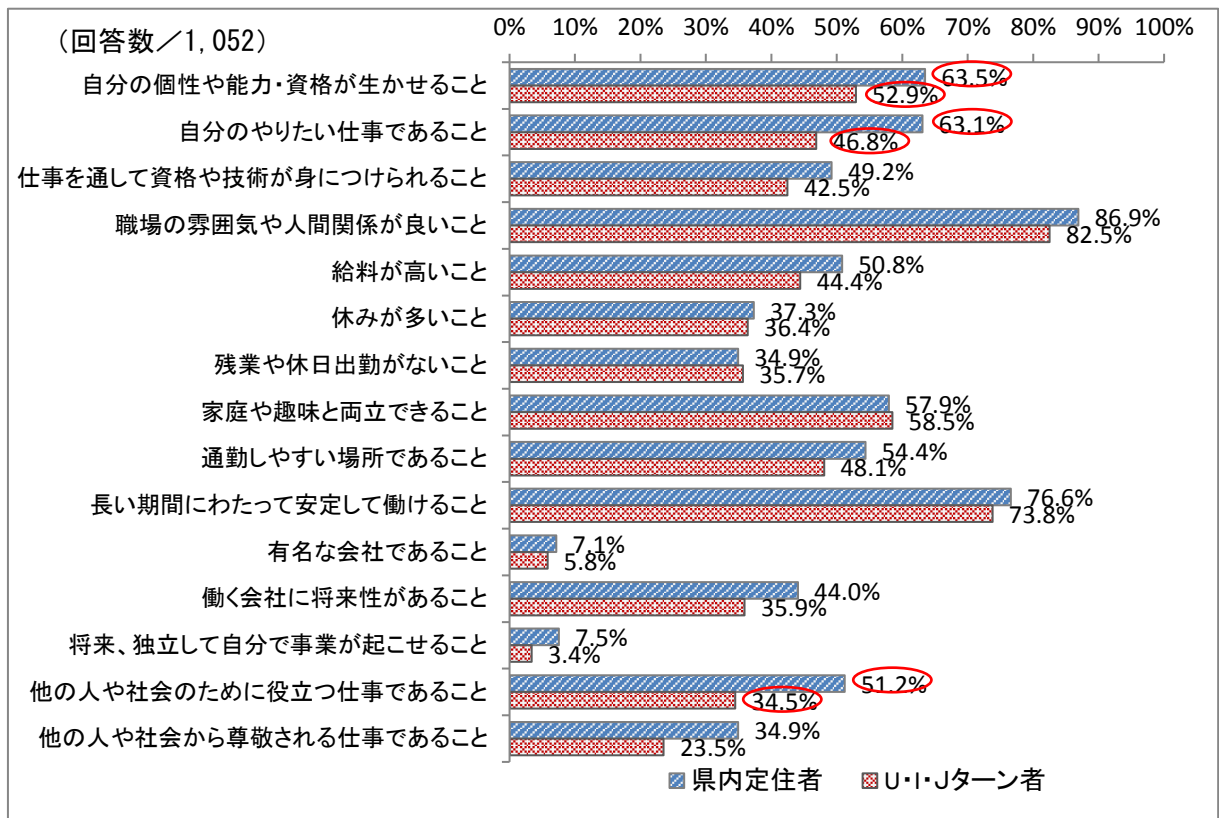
2 移住経験別等のクロス分析より

(1) 移住経験の有無による回答者の属性



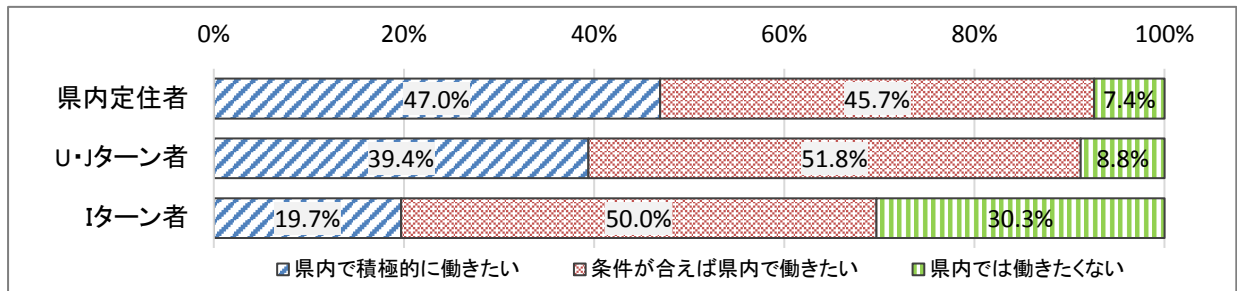
本調査では、問2において出身中学校が県内か県外かを回答してもらい、問4において県外で1年以上生活した経験の有無を回答してもらっている。この2つの設問により県内の中学校を卒業し現在も県内に居住している回答者を「県内定住者」、県内の中学校を卒業し1年間以上県外で生活したことがある回答者を「U・Jターン者」、県外の中学校を卒業し県内に居住している回答者を「Iターン者」と定義し、クロス集計を試みた。

(2) 若者の職業観と移住経験別



仕事をする上で大切だと思うこと(問10)と移住経験の有無をクロス集計すると、「自分の個性や能力・資格が生かせること」については県内定住者が63.5%に対し、U・I・Jターン者は52.9%、「自分のやりたい仕事であること」については県内定住者が63.1%に対し、U・I・Jターン者は46.8%、「他の人や社会のために役立つ仕事であること」については県内定住者が51.2%に対し、U・I・Jターン者は34.5%と、それぞれ10ポイント以上の差が見られた。

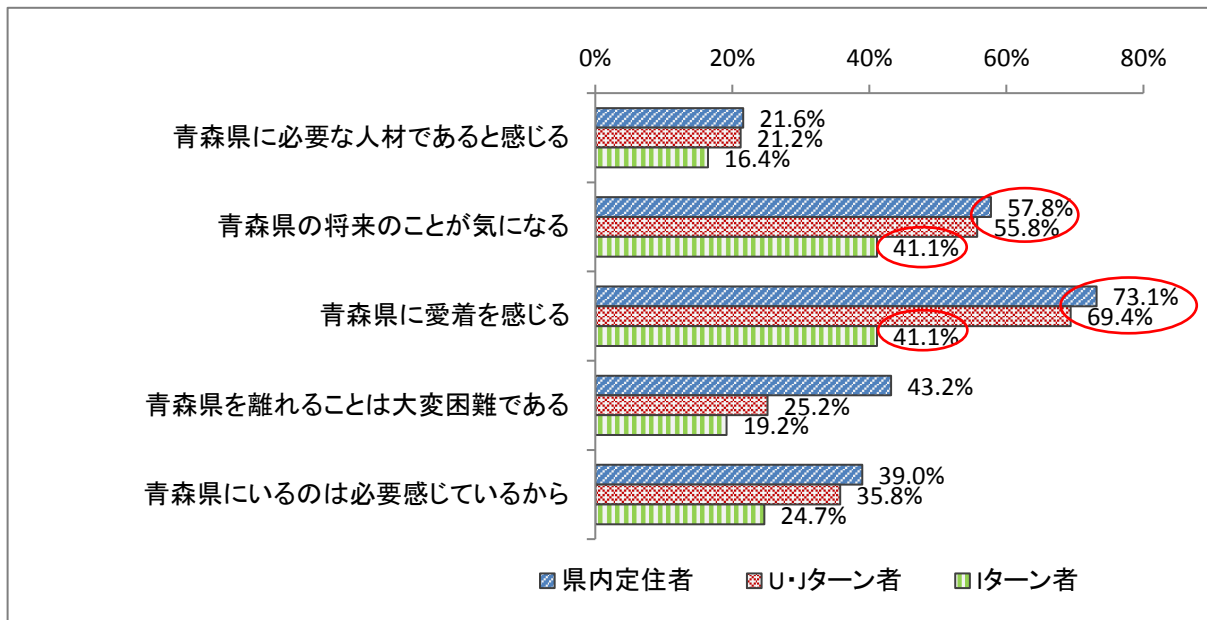
(3) 県内の就業意欲と移住経験別



県内で働くことに興味があるか(問13)と移住経験の有無をクロス集計すると、他地域での生活経験があるU・Jターン者やIターン者の県内の就業意欲が弱いことが分かる。定住者の47.0%と比較するとU・Jターン者は39.4%、Iターン者は19.7%で定住者の半分にも満たない。

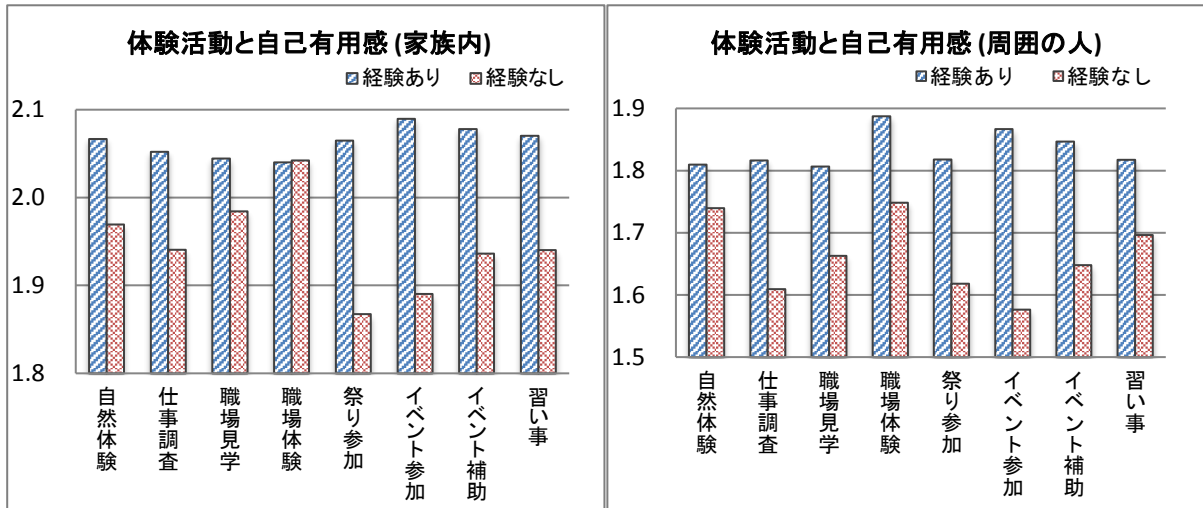
李教授の研究によると、地域への愛着は短期的に形成されるものではなく、幼少期から成長期に渡る長期的な体験が地域への愛着を育むことになるため、定住者、地元出身のU・Jターン者が移住・定住政策の重要なターゲットになることを指摘している。

(4) 青森県との関係と移住経験別



自分自身と青森県との関係についてどのように感じているか(問15)と移住経験の有無のクロス集計を見ると、「青森県に必要な人材であると感じる」では県内定住者とU・I・Jターン者との間に大きな違いは見られなかったが、「青森県の将来のことが気になる」では、Iターン者が41.1%に対し、U・Jターン者が55.8%、県内定住者が57.8%とその割合が10ポイント以上高くなっている。また、「青森県に愛着を感じるか」では、Iターン者が41.1%に対し県内定住者は73.1%と30ポイント以上高くなっている。

(5) 体験活動経験の有無と自己有用感



体験活動経験の有無(問6)と自己有用感(問8,問9)のクロス集計によると、自然体験や社会参加体験を多く経験している人ほど、自己有用感が高くなると思われる。

柏谷教授の分析によると、小学生から高校生の経験を一括し、体験の有無だけに絞って自己有用感との関連性を調べると、家族内・周囲の人どちらの自己有用感においても、体験活動を経験した人の方が、経験したことのない人よりも自己有用感は高くなるという結果が得られている。